

《 兵庫県 》

第61回近畿音楽教育研究大会 兵庫大会

大会主題 「心動く瞬間(とき)を求めて」

1. はじめに

平成25年の全日本音楽教育研究会全国大会兵庫大会では「つながる音・人・心」という大会主題のもと、子供たちが様々な音や音楽の美しさやよさに浸り、音楽を通して人々とつながり、多様な価値観を大切にしようとする心をもつことを願い研究に取り組んできた。それを踏まえ、子供が主体的に音楽に関わり、思いや意図をもって音楽表現をしたり味わって聴いたりする姿、そのために必要な音楽科における知識及び技能の習得を目指して授業づくりについて研究をしている。

今大会では、これまでの研究をさらに深めていくことに加え、特に“音楽に対する豊かな感性”の育成に着目し、研究を進めることとした。

2. 大会主題の趣旨

私たちは、物事を色々な見方で捉え、考え、判断して生活し様々なものに心を動かされている。大辞泉によれば「心が動く」とは、「心が引きつけられる。関心をもつ。その気になる。」とある。

音楽教育において、子供が様々な音や音楽に触れて関心をもったり心が惹かれたりする場面、即ち心動く瞬間を多くつくり、豊かな音楽活動の基盤とも言える“音楽に対する感性”を育むことを大切にしたいと考えた。中教審答申(H28.12.21)においては「感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと」の充実が求められている。このことから表現や鑑賞の活動を通して、子供の心が動いた瞬間、自分の心が動いた根拠を、音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとして明らかにしていく過程を大切に

にしたいと考える。教師が授業の中に“心動く場面”を様々な仕組み、子供が音楽の楽しみ方や聴き方を身に付け、音楽に対する感性を育成していくことを目指すとともに、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てることを願って大会主題を設定した。

3. 各校種で捉える「心動く瞬間(とき)」

音楽活動の中で、子供の心が動く瞬間とはどのような“とき”なのか。次はそれぞれの校種で捉えた「心動く瞬間」の子供の様子の例である。

<特別支援学校>

- ・楽しい、心地よい音や音楽に触れた瞬間

<幼稚園>

- ・楽しさ、心地よさ(ワクワク)、面白さ、不思議さなどに気付いた瞬間
- ・友達と気持ちが一つになった瞬間

- ・感情体験(嬉しい・悲しい・悔しい)の瞬間

<小学校>

- ・わかった、できた瞬間
- ・やってみたい、もう一度聴きたいと思う瞬間
- ・認められた、仲間と心が一つになった瞬間

<中学校>

- ・基本的スキルが向上した瞬間(達成感・有用感)
- ・わかった(新しい世界が開けた)瞬間
- ・できた(音楽を楽しむ術を身に付けた)瞬間
- ・聴き取れた 感じ取れた瞬間(音の重なり・アンサンブルの美しさ楽しさ)

<高等学校>

- ・知覚・感受し、音や言葉で自ら表現する瞬間

このような瞬間に出会った時、子供は、目を輝かせる、体を動かす、表情を変える、つぶやく、口ずさむ、顔を見合わせる、拳手し

て発言しようとするなど、友達と意見交換しようとしたり音や言葉で表現しようとしたりと、それぞれの発達段階に応じた方法で、自分の心の動きを表現しようとする。子供が心を動かす瞬間は、指導者が次の手だてへと思考を巡らせる瞬間でもある。

4. 研究の視点

音楽の授業の中に「心動く瞬間」を仕組み、子供の感性を育むためにはどのような手だてが有効であるかを各校種で出し合ったところ、次の三つのことが挙げられた。

①音や音楽との出会わせ方の工夫

子供がまず興味・関心をもつ(=心動く)ような仕掛けづくり、つまり導入を工夫する。

②他者との協働の喜び(学習形態の工夫)

音を合わせたり聴き合ったりして心を動かし、音や音楽を友達と共有する場、意見交換したり認め合ったりして、自己が変容していく場を設定する。

③発問や評価の在り方(学習展開の工夫)

子供の思考の流れに沿う発問、的確な見取りと子供に返る評価を行う。

5. 各校種部会テーマ

大会主題を受け、各校種部会テーマを次のように設定しそれぞれの校種で研究を進めてきた。

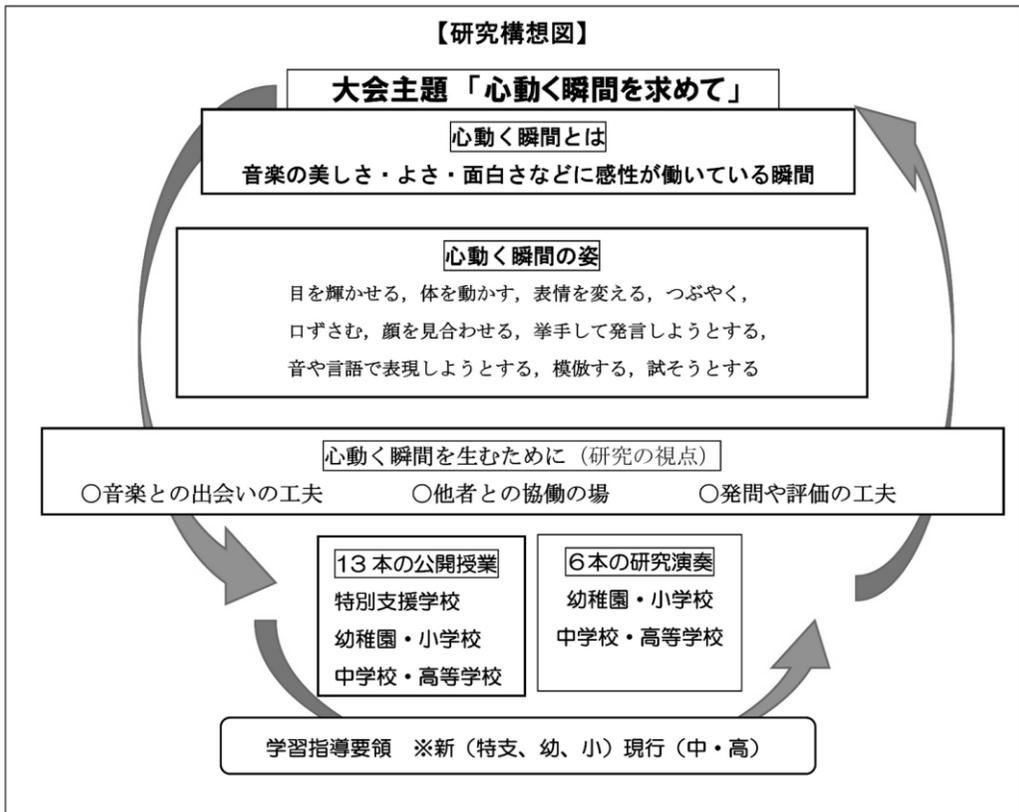
<特別支援>
みんなで響かせよう！自分たちのおと

<幼稚園>
みんなで遊ぼう 楽しい音！リズム！

<小学校>
いいね！おもしろいね！
みつけようよ音楽の魅力

<中学校>
生まれ！感性 広がれ！！世界
～学びのスパイラルの構築を目指して～

<高等学校>
伝わる音楽を求めて～感性と深い学び～



6. 各部会研究内容

幼稚園部会

幼児は、身近な環境に関わり、遊びを通して様々なできごとに心を動かす。それを友達と様々な方法で表現して伝え合うことで、互いの表現に触れ、刺激を受け、一人一人の表現が豊かになっていく。豊かな感性を育成するために、幼児の興味・関心、発達に応じた環境の構成や援助の在り方について研究を進めた。

小学校部会

子供が音や音楽の美しさ、面白さに心を動かし「いいね！」友達と共有することの喜びを知る姿、なぜ心が動いたのか、「おもしろいね！」と音楽的な知識・技能を習得し活用する姿、思考力・判断力・表現力等を身に付け、それを生かすなどして感性を磨いていく姿、そして、音楽的な見方・考え方を働かせて、さらなる「音楽の魅力をみつけていく」子供の姿をイメージして、授業づくりを行った。学習指導要領の移行期として、身に付けるべき資質・能力の育成を目指し研究を進めている。

中学校部会

授業の中で様々な「心動く瞬間（とき）」に出会い、生徒がより主体的に音楽に関わることで、一人一人の感性は、豊かに高まっていくと考えた。

そして、題材の目標の達成に留まらず、新たな気付きや次の学び、音楽以外の分野の学びへと広がることを目指した。生徒が自ら楽曲について感性を働かせ、それを他者と協働し、互いに高め合えるような学習展開について、研究を進めてきた。

高等学校部会

自分の思いや意図を音や音楽で表現し、それを聴き手に伝えたい、という音楽的欲求を満たすためには、自分の伝えたいものをどのような音や音楽で表現するのかという音楽的な感性、そして自分や聴き手の「心が動く瞬間（とき）」を生むための音楽表現の技能が必要であると考えた。

「思いや意図を音や音楽で表現するための

技能」と「豊かな感性」のスパイラルな関係がさらなる音楽的欲求の高まりにつながっていくと考え、研究を進めた。

特別支援学校部会

「他者を知り、自分を知る、集団との関わりを深めること」について、みんなで音を楽しむ場である音楽の授業の実践を、研究してきた。一人一人が打楽器を使い、簡単なリズムを多様な方法で演奏し、音楽の流れの中で、自分や友達の出す音に包まれ、心動くとき（瞬間）を“共有”すること、共に集う喜び、学ぶ喜び、生きる喜びにつないでいくことを願い「みんなと一緒に音楽を楽しみたい」という児童・生徒の思いから「これだ！」という気付きへ、そして「叩こう！」という動き、さらに「できた！」という達成感を味わう姿につながると考え研究を進めた。

7. 成果と課題

成果

- ・保育・授業づくりをする過程で、音楽教育の根幹にある「豊かな感性」の育成に着眼し、子供の「心が動く瞬間（とき）」を仕組むための手だてを考えるにあたり、「音や音楽との出会いの工夫」「他者との協働の場」「発問や評価の工夫」という三つの視点をもって、保育・授業づくりを考えるようになった。
- ・音や音楽に主体的に関わり思考する子供の姿、感じ取ったことや聴き取ったことについて「なぜこう聴こえるのか」や「速いから気持ちがウキウキする」など、知覚と感受の関わりについて考える姿や友達と協働して伝え合う姿が、多くみられるようになった。

課題

- ・新学習指導要領の全面実施にむけて、子供の資質・能力を伸ばすための「評価」についての研究
- ・保育・授業の中で「音楽的な見方・考え方」を働かせている子供の姿の具現化。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を仕組み、育てたい資質・能力に迫る保育・授業づくりの実践。